

平成22年度（2010年度）

小学校英語活動に関する研究

小学校における外国語活動は、いよいよ来年度（平成23年度）からの完全実施を目前に控えているが、学校現場では当初「総合的な学習の時間」の一環として導入された経緯から、教員の経験値や指導方法・捉え方に依然有意な差が顕著にみられる現状がある。

そこで今年度の部会は、部員が一新したことも加味して、外国語活動の基礎・基本の確認から始め、中学校区毎に協力して指導案を作成し、最終的には担任主導によるALTとの公開授業まで研究を進めることができた。

<研究員>

新村 寿恵	箕面市立箕面小学校
中山 篤史	箕面市立箕面小学校
宮部 晃子	箕面市立萱野小学校
大形 宏紀	箕面市立北小学校
寺内 万里子	箕面市立南小学校
神島 尚美	箕面市立西小学校
新居 達	箕面市立東小学校
足立 稔美	箕面市立西南小学校
安達 隆史	箕面市立萱野東小学校
木谷 みどり	箕面市立豊川北小学校
升谷 美帆	箕面市立中小学校
前澤 鮎子	箕面市立豊川南小学校
松川 秀夫	箕面市立萱野北小学校
宮本 誠貴	箕面市立萱野北小学校
吉村 淳史	箕面市立止々呂美小学校

<スーパーバイザー>

竹内 理	関西大学 教授
池田 真生子	関西大学 准教

I 研究テーマの設定について

新指導要領による、来年度（平成23年度）からの小学校における外国語活動の完全実施に向け、次の2点を研究のテーマとした。

- (1) 小学校における外国語活動のあるべき形についてー基本から実践まで
- (2) 担任主導による外国語活動の指導案作り

II 研究実績

4月14日 研究部会「今年度の研究の方向性について」

5月31日 研究部会『『小学校外国語活動』は、どうあるべきか』
(講師) 竹内 理

6月24日 研究部会「担任主導の外国語活動ー指導案の作成」
(講師) 池田 真生子

7月26／27／28／29日

研修「小学校英語活動実践研修」(兼：教育センター夏季研修)

(講師) ラフマン・シャフセイリ、クリス・デビアシ、
ダン・ノックス、ライアン・キシダ、マーク・アディソン、
ジュリアン・ローズ、ミゲル・トレス・スアレス

8月10日 研修「児童の国際感覚を楽しく高める小学校外国語活動」
(兼：教育センター夏季研修)
(講師) 池田 真生子

9月8日 研究部会「指導案作りー中学校区毎に分かれてー」

10月15日 研究部会「指導案の発表」
(講師) 池田 真生子

11月19日 研究公開授業「担任主導によるティームティーチングの授業」
(授業者) 萱野小学校 宮部 晃子
ALT ジュリアン・ローズ

研究協議・講演「ティームティーチングのポイント」
(講師) 池田 真生子

12月1日 研究部会「評価方法について・指導案の訂正」

1月26日 研究部会「箕面市における外国語活動の現状と来年度に向けての課

題について～平成22年度(2010年度)箕面市外国語活動アンケートの集計結果より～

Ⅲ 研究内容

研究部会各回の資料(別添)

Ⅳ 次年度への課題

新学習指導要領により、いよいよ来年度(平成23年度)から小学校における外国語活動が全国の公立小学校の5・6年生で毎週1時間実施される。

本市における小学校での外国語活動(英語活動を含む)に関する研究の歩みを振り返ると、平成13年度(2001年度)に「小学校における英語学習のあり方に関する研究」部会を立ち上げてから、ちょうど十年目を終えようとしている。当初、小学校における英語は「総合的な学習の時間」の国際理解教育の一環として導入されたものであり、指導者はもちろん指導方法も確立されていないという暗中模索の状況からのスタートだった。研究活動の成果は年を追う毎に表れ、市内各小学校で指導内容や指導方法を工夫し導入・展開されながら現在に至っている。

外国語活動の必修化は、そういった全国の動きに突き動かされる形で決定されたわけであるが、改めて本市の現状を掌握してみると、意外なことに小学校における外国語活動に対して不安感や抵抗感を抱く教職員の数は依然として多いという声を未だよく耳にする。

そこで、次年度は、「英語ノート」の活用を基本にしながらも、児童の興味・関心にそった内容にするための視点や工夫の仕方などについて、より具体的で実践的な手法を研究し、学校に発信していくということで合意に至った。

平成22年(2010年)4月14日
小学校英語活動に関する研究部会

小学校英語活動に関する研究部会報告(4月)

1. スーパーバイザー紹介等

- ・ 関西大学教授 竹内 理
- ・ 関西大学准教授 池田 真生子

- ・ ALT-中学校区に1名ずつ計7名配置。(市で雇用)勤務時間は8:30~17:00。勤務日の変更は、中学校区内で調整可能。早めに管理職を通して調整し、有効に活用のこと。

2. 今年度研究の方向性について

- ・ 同一中学校区の小学校ごとに協力して、授業案を作成。ALTミーティングが毎水曜午後あるので、適宜合同で指導案作りや英語研修等行う。2学期に公開授業を実施する。

3. 「平成21年度(2009年度)研究紀要」より

※研究紀要参照

4. その他(質疑応答)

小学校英語活動に関する研究会報告(5月)

『小学校外国語活動』は、どうあるべきか

関西大学外国語学部・大学院外国語教育学研究科
竹内 理 教授

1) 小学校外国語活動の目的を再確認する

①言語習得ではない、態度の育成である

- ・外国の人が近づいてきても逃げ出さず、ジェスチャーを交えて対応できる態度を育てる。
- ・小学校外国語活動は、5・6年生の2年間のトータルでもわずか70時間に過ぎない。(70時間÷24時間=約2.9日)それだけでは、習得など不可能。

②文化を知る

- ・人と会話するときは、アイ・コンタクトが重要。

③音声・体験中心

- ・文字でなく、耳から英語を入れる。
- ・例—ジェスチャーの違いを体験させる。

④文字は二の次

- ・無理矢理書かせない。

2) 授業組み立てのコツ

- ・上述の目的にあった活動を
- ・知的レベルにあった活動を(プロジェクト型)
- ・クールダウンを忘れずに
- ・振り返りを忘れずに

3) 評価の方法

- ・態度評価—“～しようとしているか。”

4) 将来に向けて

- ・小中連携—足並みを揃えなければ、中学校が困る。(記録を残し、中学校へ伝える)
- ・小中連携—お互いに授業を見合う。

平成22年(2010年)6月24日

小学校英語活動に関する研究部会

小学校英語活動に関する研究部会報告(6月)

担任主導の外国語活動：指導案の作成

関西大学外国語学部

池田 真生子 准教授

1) なぜ担任主導?

- ・担任でなければ、できないことがある。
- ・子どもの興味・関心に沿った教材を準備できる。
- ・授業運営でコントロールができる。
- ・同じ日本人のロールモデルとして教室に存在することにも、大きな意味がある。
(子どもにより身近な存在として)

2) 担任主導にするために

- ・子どもをどういう方向に持っていくのか、ねらいを持つ。(面白いだけではダメ)
- ・授業を見せる、見てもらう。
- ・活動の引き出しを増やす。(音声・リズム中心の活動/体を使った活動/絵本の読み聞かせ、等々)
- ・校内で、リサイクルのコーナーを作る。(教材のストックを整理しておく)
- ・教室英語の習得を心がける(1単元に1つずつからでも)
→クラスルーム・イングリッシュを使う時だけでいいから、発音を意識してみる。(ジャパニーズ・イングリッシュでOK! こだわり過ぎてはいけな
いが、sとthなど重要な違いは気をつけてみるのが肝要)
- ・研修会に参加する。(参加者内のネットワークが出来ることや、情報交換・悩みの共有をすることが大切)

平成22年(2010年)8月10日

小学校英語活動に関する研究部会
兼、夏季教員研修(授業力アップ講座)

児童の国際感覚を楽しく高める小学校外国語活動

池田 真生子(関西大学 外国語学部)

1. おさらい

外国語活動の目標は？

外国語を通じて、(言語)や(文化)について(体験的)に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする(態度)の育成を図り、外国語の(音声)や(基本的な表現)に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の(素地)を養う。

(新学習指導要領(平成20年3月告示、平成23年4月実施)より)

2. 文化についての理解を深める活動とは

(1) 言語的

① あいさつ言葉

- ・「いただきます」「ごちそうさまでした」「ただいま」の英語は？
- ※英語にない言葉は、どれでしょう？

② 外来語

- ・ガソリンスタンド → gas station
- ・ハンドル → wheeling
- ・ワンピース → dress
- ・ワイシャツ → shirt

③ 発音

- ・日本語と英語で発音の違うものは？

(2) 非言語的

① 距離(人と人との距離感覚)

- ・ラテン系…立ち位置が近い
- ・アメリカ…触れると “Excuse me!”

②目線 (Eye Contact)

- ・ 3分間、目をそらさず語り合うことができるか？

③イメージ

- ・ 動物… chicken=弱い pig=幸運のお守り lark=家族の幸せ
elephant=長寿 goat=悪魔の使い rabbit=生命の誕生
dog=忠実 cat=きまぐれ、好奇心の固まり
- ・ 食べ物… apple=青=すっぱい、悪い
lemon=悪い (例、故障車)
carrot=欧米の子どもに人気
spinach=欧米の子どもに不人気

④贈り物 (タブー)

- ・ 花： 切り花
鉢植えの花
白菊
紫の花
黄色の薔薇=不吉 (ロシア)
シクラメン=死・苦… (日本)
- ・ 食べ物： ケーキ…欧米では手みやげとしてダメ
アルコール…欧米では手みやげとしてダメ
- ・ その他： 靴下…よほど親密な相手でないとはダメ
ハンカチ…中南米では、お別れの意味
香水…かなり親密な関係 (恋人・夫婦)
時計…中国ではタブー (死を表す)
お金…欧米では cash (=賄賂) のイメージ

3. まとめ

- ・ 既知のものでも新たな発見をもたらす話題等を扱う
- ・ 外国人の表現や身振りの中から、自文化についても気付かせる

(参考文献)

大津由紀雄、窪菌晴夫(2008)『こどぼの力を育む』東京：慶應義塾大学出版会
文部科学省(2008). 新学習指導要領(平成20年3月告示 平成23年4月実施分)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/gai.htm

平成22年(2010年)9月8日
小学校英語活動に関する研究部会

小学校英語活動に関する研究部会報告(9月)

1. 指導案作り—中学校区毎に分かれて—

※出席者の関係で、以下のようにグループ分け

- ①箕面小学校&西小学校 (一中校区)
- ②萱野小学校&萱野東小学校 (二中・五中・四中校区)
- ③東小学校&豊川北小学校 (六中校区)
- ④中小学校&止々呂美小学校 (五中・止々呂美中校区)
- ⑤西南小学校 (三中校区)

平成22年(2010年)10月15日
小学校英語活動に関する研究部会

小学校英語活動に関する研究部会報告(10月)

1. 指導案の発表—中学校区毎に—

(指導助言)

池田 真生子(関西大学 外国語学部)

※指導案は、次ページより

Lesson 6 『行ってみたい国を紹介しよう』 ※様々な国々について興味・関心を深め、英語で行ってみたい国を発表する	言語材料・語彙 〈言語材料〉 I like ~. I want to see ~. I want to go to ~. 〈主な語彙〉 国名・動物・食べ物・スポーツ 〈主な準備物〉 国旗・地図	第1時 〈目標〉 世界には色々な言葉が話されていることを知り、主な国々の国旗を知る。 〈内容〉 (1)挨拶 (2)国旗カードを使って導入 "What country is this?" "It is ~." (3)教科書p.42~43(世界遺産)などを紹介し、興味を広げる。 (4)振り返し。挨拶。	第2時 〈目標〉 国とその他の特徴を知る。 〈内容〉 (1)挨拶 (2)食べ物・動物・スポーツ "What food do you like?" "I like ~." (3)"I'm ~" "I like ~"とグループで言い合い、自己紹介をする。 (4)地図帳の世界地図を参考に、挿絵など見て国の特徴を知る。 (5)"What is this?" "It is ~." (6)振り返し。挨拶。	第3時 〈目標〉 行ってみたい国を聞いたり答えたりする。 〈内容〉 (1)挨拶 (2)国旗カードを使って、国名を確認する。 "What country is this?" "It is ~." (3)Let's Listen②(p.39)-それぞれの行ってみたい国と理由を聞いて、国旗と結ぶ。 (4)"I want to go to ~"国を選び、行ってみたい国とその理由を言ってみる。(口頭練習をする) (5)カード記入 (6)振り返し。挨拶。	第4時 〈目標〉 行ってみたい国の理由を発表し、相手の行ってみたい国や理由を理解する。 〈内容〉 (1)挨拶 (2)発表をする。 "I want to go to ~." "I want to see ~." "I like ~." (3)発表をする(ピンゴー共通点を探しながら発表を聞き、自分と同じ国・動物が出てくると予想されるものを記入するゲームをする) (4)ピンゴゲーム→結果発表 (5)振り返し。挨拶。
主な判断材料					
通知票観点 (二)評価規準) 外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものを見方や考え方があることなどに気付いている。 【言語や文化に関する気付き】 コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。【外国語への慣れ親しみ】	第1時 国旗について興味を持つ。 英語と日本語の国名の発音の違いに気付く。	第2時 国により、食べ物・動物・スポーツなどの特徴があることを知る。 自分が言うだけでなく、相手の言葉を一生懸命に理解しようとする。	第3時 行ってみたい国の国旗と地図上の位置を知る。	第4時 知っている表現とジェスチャーを駆使して、伝えたいことを懸命に伝えようとする。	

Lesson 6 『行ってみたい国を紹介しよう』	言語材料・語彙 (言語材料) I want to go to ~. I want to eat ~.	第1時 <目標>いろいろな国で話されている英語に興味をもつて知る。	第2時 <目標>自分が行きたい国に関してのまとまった英語を聞いて、その概要を理解し、班でクイズを作る。	第3時 <目標>行きたい国やその理由について尋ねたり、尋ねられて答えたりする。	第4時 <目標>行きたい国をその理由とともにまとめ、相手の行きたい国やその理由とを理解したりする。
	<内容> (1) 挨拶 (2) カタカナの食べ物、飲み物を班で出し合う。 (3) どここの国の外来語か考える。 (4) Let's Listen② (p.39)-どの国の国旗か考える。 (5) 振り返り。挨拶。	<内容> (1) 挨拶 (2) 国旗の復習 - Let's Chant (p.37) (3) 世界遺産から外国を知る。 (4) 班で3ヒントクイズをつくる。 (5) 振り返り。挨拶。	<内容> (1) 挨拶 (2) 国旗の復習 - Let's Chant (p.37) (3) Activity① (p.41) - 自分が行ってみたい国についてその理由と国旗を絵にかいて表す。 (4) 振り返り。挨拶。	<内容> (1) 挨拶 (2) 国旗の復習 - Let's Chant (p.37) (3) 自分が行ってみたい国についてまとめたり発音練習したりする。 (4) 班でショーアンドテルをする。	
通知票観点 (二) 評価規準)					
外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものを見方や考え方が異なることなどに気付いている。 【言語や文化に関する気付き】	いろいろな国で話されている英語に、興味・関心を持って活動に取り組んでいたか。	班の話し合いで、積極的に意見をを出していたか。	CDを聞いた、世界遺産の写真を見たりして、国名とその国のことを理解しようとしていたか。	自分が行きたい国について、簡単な理由とともに発表しよう(伝えよう)としているか。また、友だちの発表を聞き、行きたい国やその理由を理解しようとしているか。	
コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】		英語の外国名に親しみ、進んで発音したり発表しようとしたりしていたか。		CDを聞いて、内容を理解しようとしていたか。	
活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 【外国語への慣れ親しみ】					

Lesson 6 『行ってみたい国を紹介しよう』	言語材料・語彙 ＜言語材料＞ Where do you want to go? 「どこへ行きたいですか。」 I want to see～. 「～を見たい」 ＜主な語彙＞ England-English Japan-Japanese China-Chinese Korea-Korean	第1時 ＜目標＞ 国旗から、外国の言語・文化に興味を持つ。 ＜内容＞ (1)挨拶。 (2)国当てクイズ①をやる。 (国旗を見て、その国の名前を当てる) (3) (2)の国で話される言語を考える。 (4)【Let's Listen②】(p.37) (5)振り返り。挨拶。	第2時 ＜目標＞ 世界の国に興味をもち、自分の行ってみたい国のイメージを持つ。 ＜内容＞ (1)挨拶。 (2)【Let's Listen②】(p.39) (3)国当てクイズ②をやる。 (各国の有名な世界遺産を取り上げる) (4) (3)の国からイメージする食べ物・名所・動物などを発表する。	第3時 ＜目標＞ 行きたい国を尋ねたり、尋ねられて答えたりする。 ＜内容＞ (1)挨拶。 (2)チャンツ (3)自分が行きたい国として、その理由と国旗を絵に描いて紹介する。→あらかじめ国名を書いたビンゴカードを用意し、ビンゴゲームをしながら聞く。 (4)振り返り。挨拶。	第4時 ＜目標＞ 行きたい国をその理由とともにスピーチし、相手の行きたい国やその理由を理解しようとする。 ＜内容＞ (1)挨拶。 (2)チャンツ (3)自分が行きたい国について、その理由と国旗を絵に描いて紹介する。→あらかじめ国名を書いたビンゴカードを用意し、ビンゴゲームをしながら聞く。 (4)振り返り。挨拶。
-----------------------------	--	---	---	--	---

主な判断材料				
通知票観点 (＝評価規準)	第1時	第2時	第3時	第4時
外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの方や考え方があることなどに気付いている。 【言語や文化に関する気付き】	①国旗から様々な国を知り、またその言語・文化について理解しようとする。 ②話される言語(English/Japanese/ Chinese/ Korean)に興味をもつ。	自分の知っている外国の知識を発表し、相手に伝えようとする。	①自分の行きたい国名を発表しようとする。 ②友だちの話を聞いて理解しようとする。	自分の行きたい国を、その理由とともに相手に伝えようとする。
コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】	【Let's Listen②】を聞いて、自分の知っている単語を進んで聞き取ろうとする。	Where do you want to go? 「どこへ行きたいですか。」 I want to see～. 「～を見たい」 などの英語表現に興味を持つ。	Where do you want to go? 「どこへ行きたいですか。」 I want to see～. 「～を見たい」 などの英語表現に興味を持ち、積極的に話そうとする。	ビンゴゲームをしながら、友だちの行きたい国を意欲的に聞き取ろうとする。
活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 【外国語への慣れ親しみ】				

Lesson 6 『外来語を知ろう』	言語材料・語彙 〈言語材料〉 What do you want? I want ~. 〈主な語彙〉 フルーツの名前 身の回りの外来語	第1時 〈目標〉 外来語とその元となる言語とでは音が違うことに気づき、英語の音に気をつけて発音しようとする。 〈内容〉 (1) 挨拶。 (2) 身の回りの外来語探し。 (3) 英語以外の外来語について知る。 (4) ALTの発音を聞いてその言葉を指差す。 (5) Missing Gameをする。 (6) 振り返り。挨拶。	第2時 〈目標〉 自分のほしいものを頼めるようになる。 〈内容〉 (1) 挨拶。 (2) Let's Listen②をして、"What do you want?"を知る。 (3) "What do you want?"といわれて、自分のほしいものを言う。 (4) サイモンゲームの変形ゲームを行う。 (5) 振り返り。挨拶。	第3時 〈目標〉 ほしいものを尋ねたり、要求したりしてお互いに自分のオリジナルフルーツパフェを作る。 〈内容〉 (1) 挨拶。 (2) パフェに使う単語を知り、カード上げゲームをする。 (3) ペアでかわりばんこにパフェ作りをする。 (4) 振り返り。挨拶。	第4時 〈目標〉 作ったフルーツパフェを紹介する。 〈内容〉 (1) 挨拶。 (2) カード上げゲームで前時の復習をする。 (3) オリジナルフルーツパフェの紹介ゲームをする。 (4) 振り返り。挨拶。
主な判断材料					
外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものが見方や考え方が異なることなどに気付いている。 【言語や文化に関する気付き】 コミュニケーションに関心をもち、積極的コミュニケーションを図ろうとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】	身の回りや生活の中から見つけた外来語と英語での言い方の違いに気付く。	自分のほしい物が何であるかを、英語を用いて表現しようとする。 ゲームに参加し、ルールを守りながら楽しむことができている。	友だちの欲しい物を聞き分け、パフェを作ることができている。 友だちに欲しい物を言うことができています。	友だちのフルーツパフェを当てようとしている。 ALTの発音を聞き、単語を聞き分けようとすることができる。	第1時 第2時 第3時 第4時

Lesson 6 『外来語を知ろう』	言語材料・語彙 〈言語材料〉 What do you want? 〈主な語彙〉 国旗・名所 食べ物	第1時 〈目標〉 身近な外来語を通して、日本と世界が言葉でつながっていることに気付く。 〈内容〉 (1)挨拶 (2)外来語をさがそう。 (発音・リズムにのって…電子黒板使用) (3)ゲーム (キーワード・ステレオ) (4)振り返し。挨拶。	第2時 〈目標〉 国によって食べ物に違いがあることを知る。 〈内容〉 (1)挨拶 (2)国旗・名所 (3)食べ物(各国) (4)ゲーム(英語ノートよ) (5)ゲーム(マッチング) (6)振り返し。挨拶。	第3時 〈目標〉 メニューを見て注文する。 〈内容〉 (1)挨拶 (2)班づくり (3)メニュー作り (4)簡単なレストラン会話 (5)振り返し。挨拶。	第4時 〈目標〉 レストランごっこをする。 〈内容〉 (1)挨拶 (2)レストランごっこ —客役と店員役を交代で (3)振り返し。挨拶。
-----------------------	--	--	--	--	---

主な判断材料					
通知票観点 (=評価規準) 外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なもの見方や考え方があることなどに気付いている。 【言語や文化に関する気付き】 コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 【外国語への慣れ親しみ】	第1時 外来語とその由来の語との発音の違いに気付く。	第2時 国旗の違いに気付く。 世界の国々の食べ物を知る。 ゲームに積極的に参加しようとする。	第3時 外来語の品物が多いことに気付く。 簡単なレストランでの会話を、出来るだけ多くのクラスの友だちとしようとする。	第4時 レストランごっこの会話を意欲的にしようとする。 レストランごっこで、お客さんとして料理を注文したり、店員さんとして注文を聞き取り出したりする。	

第6学年 英語活動指導案

日時 2010年11月19日(金)
14:40～15:25 (6時限目)

指導者 宮部 晃子
ジュリアン・ローズ(箕面市ALT)

場所 箕面市立萱野小学校 視聴覚室

学年・組 6年3組 34名

1、単元名 Lesson 6 『I want to go to Italy.』

- 2、単元目標
- ・いろいろな国で話されている英語に興味をもつ。
 - ・自分の思いがはっきり伝わるようにスピーチをしたり積極的に友だちのスピーチを聞いたりしようとする。
 - ・自分が行ってみたい国についてその理由も含めて発表する。

3、単元計画(4時間、本時1/4)

時	目標	主な学習活動	主な英語表現
1	いろいろな国で話されている言葉に興味をもって知る	① 挨拶 ② カタカナの食べ物、飲み物を班で出し合う ③ どの国の外来語か考える ④ Let's Listen2 どの国の国旗か考える ⑤ ふりかえり、挨拶	America Germany Brazil China Italy France Australia India Canada など
2	行きたい国に興味をもち、班でクイズを作る	① 挨拶 ② 国旗の復習 Let's Chant ③ 世界遺産から外国を知る ④ 班で3ヒントクイズを作る ⑤ ふりかえり、挨拶	Look at this. I want to go to Italy. I want to eat pizza. I want to play soccer.
3	行きたい国やその理由について尋ねたり、尋ねられて答えたりする	① 挨拶 ② 国旗の復習 Let's Chant ③ Activity1 自分が行ってみたい国についてその理由と国旗を絵にかいて表す ④ ふりかえり、挨拶	Look at this. I want to go to ~. I want to eat ~. I want to play ~. など
4	行きたい国をその理由とともにまとめ、相手の行きたい国やその理由を理解したりする	① 挨拶 ② 国旗の復習 Let's Chant ③ 自分が行ってみたい国についてまとめたり、発音練習したりする	Look at this. I want to go to ~. I want to eat ~. I want to play ~. I like ~. など

		④ 班でショーアンドテルをする	
		⑤ ふりかえり、挨拶	

4、教材観

本単元では、子どもたちの興味がある食べ物やスポーツ、国の名前をつなげて、自分の行きたい国を紹介したり、友だちの発表を聞いたりすることをねらいとしている。食に関することに興味がある学年だったので、4、5年の総合学習では、食に関する活動に取り組んできた。昨年度のALTとの関わりの中で、出身国のアゼルバイジャンの飲み物である「アイラン」について教えていただく機会があった。子どもたちの中には、家に帰ってアイランを作ってみたという子どももおり、異文化や食に対して前向きに取り組むことができた。今年度もALTの自己紹介の際、出身国の食べ物である「ベジマイト」について知ることができた。ALTとの関わりは、英語を使ったコミュニケーションだけにとどまらず文化に関しても大切にしていきたい。

児童は、今年度の2学期、国語科の単元「言葉の由来に関心を持とう」で外来語について学習している。ガーゼ、カルテ、ピアノ、ソプラノ、ガラスといった普段使っている言葉が、英語ではなく、ドイツ語、イタリア語、オランダ語などに由来していることを学習した。そこで、このレッスンでは、食べ物に関して普段日本で使われている言葉がどこの国に由来しているのかを知り、興味につなげていきたいと考えた。

PCや地図帖なども使って、食べ物やスポーツ、世界遺産などをきっかけに、自分の行きたい国を決めて調べ、世界にはいろいろな国があることを知ってほしい。興味を世界に広げ、異文化に出会い、より外国語活動への意識を高めるきっかけにしたい。

この学年の子どもたちは、友だちに温かく元気である。教師からの働きかけに素直に反応して行動したり、自信のあることに関しては発表を意欲的にしたりできる。その反面、自分から行動をおこして活動することが苦手であり、自信のないことには消極的になる傾向がある。

そのため、5年生から、他教科でもグループで学習することを意識した学習活動に取り組んできた。自信がない子も友だちと考えたり話し合ったりすることで自分の考えをもち、理解につなげていくことができる。英語活動の中でも、グループでの活動を取り入れ活動をしている。

本学級には、学習や生活に課題をもった子どももおり、授業に参加すること自体が難しい場面も見られる。なかなか初めてのことに自信が持てないため活動に参加できず、座っている列からはみ出ようとしたりする。クラスの友だちが声をかけ活動に取り込んでいく中で、笑顔を見せる場面もある。ゲームやインタビューなどの活動を一緒にする中で、友だちの良さに気付くことも大切にしていきたいと考えている。

高学年となり、表現活動に恥ずかしさをおぼえる子どももでてきつつある。英語活動の中では意見を交流しやすく活動できるようにグループ活動や友だちとコミュニケーションを図る活動を多く取り入れている。電子黒板などのICTを活用することで、リズムに合わせて発音するチャンツを楽しく言うことができたり、英語ノートの問題の答えを前に出て画面に直接触れることで、発表したりする意欲につながっている。様々な学習活動を取り入れ、授業を楽しく意欲的に取り組めるようにしていきたい。これらの活動を通して経験したことが、中学校へとつながる一歩となればと考える。

5、本時の目標

○いろいろな国で話されている言葉に興味関心を持って活動に取り組む。

〈言語や文化〉

○班の話し合いや発表で積極的に意見を出す。

〈コミュニケーションへの関心・意欲・態度〉

○国旗の説明を聞いて考え、答えようとする。

〈外国語への慣れ親しみ〉

6、本時の展開

時間	児童の活動	指導者の活動		指導上の留意点
		クラス担任の動き	英語指導助手の動き	
2分	1、挨拶をする。	始まりの挨拶をする。	“Hello song”を歌う。	
5分	2、カタカナの食べ物、飲み物を班で出し合う。	時間を制限し、カードに書かせる。		出しにくい班には支援をする。
10分	3、児童があげたカタカナの言葉（外来語）がどこの国に由来しているか考える。	どこの国か想像させ、地図に国旗を貼っていく。 (単元の終わりに自分が行きたい国について発表することを伝える)		どこの国の言葉か想像させ面白さに気付かせる。
8分	4、英語に由来する外来語を本来の英語にもどし発音してみる。 外国名の英語を知る。 発音する。	発音するとどんな音になるのか予想させる。 国旗のカードを提示する。	外来語を英語で発音し、発音練習をする。 国名の英語を発音する。	外来語を英語では発音するとどんな音になるのかを予想させ、音の変化・その面白さに気付かせる。
5分	5、Let's Listen2	英語を聞いてわかることをメモするように伝える。		

5分	6、Let's Chant		部分に分けて発音する。	
7分	7、キーワードゲーム	国名のカードでゲームをする。 キーワードゲームのやり方を知らせる。		
3分	8、ふりかえり 挨拶	キーワードの復習をする。 できたこと、初めて知ったことなどを書く。	キーワードの発音 “Good-bye song”を歌う。	

チーム・ティーチングのポイント

池田 真生子（関西大学 外国語学部）

I. はじめに

2011 年度より、全国の公立小学校で「外国語活動」が本格的に実施されことになりました。その指針となる新学習指導要領（2008 年 3 月公示）では、「外国語活動」を進める主な担い手は学級担任であるとし、その役割は授業の「設計、実施、評価」をおこなうことと記されています。さらに、設計、実施についてはネイティブ・スピーカーの活用に努めるようにとも示されています。つまり、外国語指導助手（Assistant Language Teacher:以下 ALT）などとのチーム・ティーチングを奨励しているといえるでしょう。移行期間の 2 年前（またはそれ以前）より、随時 ALT などとのチーム・ティーチングは実施されてきているものの、「チーム・ティーチングがうまくいかない」「なぜチーム・ティーチングをしなければならないの？」などの声が研修会などでよく聞かれます。他の教科のように 1 人で授業をおこなえば、打ち合わせなどの手間もかかりません。なぜ「外国語活動」ではチーム・ティーチングが求められているのでしょうか。どうすれば、チーム・ティーチングがより効果的にできるのでしょうか。本稿では、まずチーム・ティーチング（特に ALT との）がなぜ必要なかを考察し、その必要性を理解した上で、チーム・ティーチングを効果的に進めるためのポイントをいくつかご紹介したいと思います。

II. チーム・ティーチングの必要性

1. 担任だからできること

チーム・ティーチングの必要性は、「外国語活動」の目標と関係していると考えられます。「外国語活動」の目標は、

- (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと、
- (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと、そして
- (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること

（文部科学省、2008）

の 3 本柱です。これらの目標をよくみると、担任にしかできないこと、ALT など指導助手にしかできないこと、の両方が含まれています（表 1 参照）。なかでも、担任にしかできないことの 1 つは、児童の実態を把握している、ということです。上述の目標のうち、「言葉の面白さ

や豊かさに気付（目標1）」かせたり、「多様なものの見方や考え方があることに気付（目標2）」かせたりするためには、児童が普段からどのようなことに興味・関心をもっているのかを、教師が知っていなければなりません。ご存知の通り、認知的な発達段階の途上にある子どもたちにとっては、（知的）好奇心に合った活動や教材が用意されることが、学習の促進を左右する要素の1つと考えられます。個々の児童が何に興味をもっているのか、どういうことに関心があるのかを具体的に知っているのは、普段から彼（女）らに接している学級担任です。

表1. 担任、ALTそれぞれの役割

		担任	ALT
授業前	児童の実態把握	◎	○
	活動案の作成	◎	○
	教材の作成	◎	○
授業中	学級のコントロール	◎	○
	音声モデル	○	◎
	活動モデル	◎	◎
	英語を「使う」喜びの提供	○	◎
	学習者としてのモデル	◎	
	英語に対する「不安」の排除	◎	○
	活動観察・フィードバックの提供	◎	○
異文化紹介		◎	
授業後	評価	◎	○

* ◎：より適切 ○：適切

満屋（2003, pp. 118）、岡、金森（2007, p. 116）より改編

また、集中力のスパンがまだ短い児童全体をクラスとしてまとめ、運営できるのも学級担任ならではの役割です。指導助手として「外国語活動」の授業に参加されている先生たちからも、「私たちではクラス運営がうまくできない」といった声や、「授業の前に必ず担任の先生に、児童たちの様子や気になる点がないかを聞きに行くようにしています。そうしなければ、子どもたちがいうことを聞いてくれません」というコメントをよく耳にします。このような状況で、もし担任が授業をALTに「お任せ」にしてしまうと、どうなるでしょうか。ALTは児童のことを担任ほど理解することが現実的には難しいため、ALTでは児童をまとめきることができず、授業が崩壊しまいかねません。つまり、担任が「主」になりきらなければ、ALTは担任を「アシスト」することができなくなる、というわけです。

さらに、担任だからこそできる3つ目の役割は、「英語を使う日本人」として、児童のロール・モデルとなれることです。「外国語活動」の目標の中には、「外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむ（目標1）」ということが含まれていましたが、慣れ親しむためにはもちろん繰り返

し音声やリズムに触れることが大切といわれています。しかし、いくら繰り返されてもその言葉との心理的距離が縮まらなければ、慣れ親しむこともできないでしょう。児童にとってもっとも身近な学級担任が外国語（英語）を使っている姿を見せることは、彼（女）らが自分たちの将来（＝到達目標）をより具体的にイメージすることにつながり、外国語をより身近なものと感じることができるでしょう。

2. ALT だからできること

一方、ALT だからこそできることは何でしょうか。主に考えられることの1つは、「豊富な外国語（英語）の知識を生かして活動・教材の作成ができる」ということです。担任はもちろん児童の特性に合った指導案を作る中心となりますが、外国語に堪能な ALT だからこそ作成できる教材もあります。また、外国語の教授法について専門的な知識を有している ALT もいます。こうした知識をもとにした授業の組み立てができるのは、ALT だからできることです。

ALT だからこそできることの2つ目は、「英語を使う（聞く・話す）喜びを児童に与えることができる」ということです。音声の単なるモデルであれば、CD プレーヤーや電子黒板で十分なはずですが、機械ではなく人間同士のコミュニケーションで、外国語が通じる喜びを児童が得られることが、「外国語活動」の授業では大切なのではないのでしょうか（目標3）。コミュニケーションをすることはどういうことか、そのことを子どもたちに身を以て体験させることができます。

最後に3つ目として、「ALT の自国文化や発想などを児童に伝える」ことがあげられます。上述の「外国語活動」の目標には、外国の生活、習慣、行事などを学ぶこと（目標2）も含まれていますが、ただ絵カードや地図などの教材から学ぶだけではなく、ALT から直接伝えられることで、その国がたちまち児童たちにとって身近な国となり、学習が促進されることでしょう。

このようにみると、担任、ALT それぞれにしかできない役割があるのがわかります。子どもたちがコミュニケーションの大切さを知り、多角的な考え方ができるようになるためには、やはり担任と ALT がそれぞれの持ち味を發揮し、協力し合ってチーム・ティーチングをおこなうことが重要なようです。

III. チーム・ティーチングを効果的に進めるためには

1. お互いの役割を理解「し合う」

では、効果的にチーム・ティーチングをおこなうには、どうすればよいのでしょうか。本稿では、主なポイントを3つ提案します。1つは、担任と ALT がお互いの役割を理解し合うことが考えられます。まず、前章でも述べられたように、授業運営、学級コントロールの中心的な役割を担うことです。そして ALT の役割は、授業設計・運営に際して担任をサポートすること、そして外国語（英語）で児童とコミュニケーションをとることです。

ここで大切なことは、このお互いの役割を一方向的に認識するのではなく、お互いに理解「し合う」ことです。例えば、もし授業運営の中心を、担任は ALT だと思い、反対に ALT は担任だ

と認識していたらどうでしょうか。お互いがサポート役に徹してしまい、授業を牽引する人がいなくなってしまう。そのため、両者が同じ認識を共有していることが重要といえます。

2. 打ち合わせをする

2つ目のポイントは、打ち合わせを十分にすることです。まとまった時間を確保するのが難しい場合は、「ニッチ時間」、つまり細切れの時間を作ると効果的です。朝の授業前の時間、授業直後、放課後など、ほんの数分です。この際、打ち合わせる内容さえ把握していれば、短時間でも有意義な打ち合わせが可能となるでしょう。では、何を打ち合わせればよいのでしょうか（表2参照）。授業前後で分けて考えてみると、まず授業前には、a) 指導案および教材の確認してみましょう。具体的には、授業全体の流れやお互いの役割を確認することなどが、考えられます。

表2. 打ち合わせの内容

授業前
a) 指導案および教材の確認
b) クラスルーム・イングリッシュの確認
c) 児童の情報の共有
授業後
d) 授業の振り返り

そして、次の授業に関係する部分の b) クラスルーム・イングリッシュを確認します。この際、すべてを確認するのではなく、キーワードとなるものをいくつか確認するだけでもよいでしょう。せっかく ALT が参与してくれるわけですから、児童のロール・モデルとなるべく、勉強するつもりで臨むとよいかもしれません。あまり外国語（英語）に自身がない場合には、欲張ると長続きしません。月に1つ、2つと少しずつ使うフレーズを増やしていくと、1学期が終わる頃にはある程度のフレーズを使えるようになっていた、という先生が周りにもきつというはずですよ。

クラスルーム・イングリッシュの確認が終わったら、c) 児童の情報を ALT に伝えて、授業前の打ち合わせは終了です。a)b)c) はまとまった時間にする必要はありません。先述のように「ニッチ時間」で少しずつ確認するなど、自分たちのやりやすいスタイルを模索してみるとよいでしょう。

さて、授業が終わった直後の打ち合わせも大切です。今日の授業でうまくいった点は何か？ うまくいかなかった点は何か？ 児童のことで何か気になったことはなかったか？などを話します。このように、次の授業に活かすために、担任と ALT が一緒に授業を振り返ることが有効的と思われる。

以上のように、確認したい点やアドバイスを欲しい点を把握していれば、短時間でとても実

り多い打ち合わせができ、ひいては授業がよりスムーズに進むことにつながります。

3. 良好な人間関係を築く

チーム・ティーチングを効果的に進めるための3つ目のポイントは、担任とALTとの間で、日頃から人間関係を良好にしておくことです。特筆すべきことではないように思われがちですが、実はとても大切なことだといわれています。お互いの役割を理解したり（ポイント1）、打ち合わせをしたり（ポイント2）するためには、担任とALTの対話が必要不可欠です。よりよい対話をするためには、（普段子どもたちにも教える）あいさつやジェスチャー、笑顔などを日頃から絶やさず、コミュニケーションをはかることが何よりも大切といえそうです。

IV. おわりに

本稿ではまず、チーム・ティーチングの必要性として、「外国語活動」の目標に照らし、担任およびALTそれぞれにしか担えない役割があることを確認しました。その上で、チーム・ティーチングをより効果的に進める主なポイントとして、担任とALTが1) お互いの役割を理解「し合う」こと、2) 打ち合わせをすること、そして3) 良好な人間関係を築くこと、の3つを考察しました。

昨今、海外へ留学する若者の数が減少傾向にあるといわれています(文部科学省、2010)。チーム・ティーチングが効果的に進み、その結果「外国語活動」の目標が達成されることによって、世界のさまざまな物事や考え方に興味をもつ子どもたちが増えることを期待いたします。

参考文献

- 岡 秀夫・金森 強 (2007). 『小学校英語教育の進め方 ―「ことばの教育」として―』 東京：成美堂
- 鬼本ますみ. 2006. 「英語活動のTTにおけるHRTとALTの役割の分析：タクティクスを用いた分析の試み」『日本児童英語教育学会（JASTEC）研究紀要』 第25号. pp. 17-34
- 河田嘉春 (2007). ALTとの連携・知っておきたいポイント 影浦攻、他（編）『小学校英語セミナーNo. 23 「必修」に担任としてどう取り組むか』 東京：明治図書出版 pp. 26-29.
- 兼重 昇. 2007. 「第2部第4章 指導者と指導形態、よりよいチーム・ティーチングの進め方」 岡 秀夫・金森 強（編著）『小学校英語教育の進め方』. (pp. 114-124). 東京：成美堂.
- 河田嘉春. 2007. 「ALTとの連携・知っておきたいポイント」影浦攻・小学校英語セミナー委員会（編）『小学校英語セミナー No. 23 「必修」に担任としてどう取り組むか』. (pp. 26-29). 東京：明治図書出版.
- 満屋敏夫 (2003). 「総合的な学習の時間」における「英語活動」― ALTとのチーム・テ

ィーチングの視点から 金森強 (編著) 『小学校の英語教育—指導者に求められる
理論と実践』 東京：教育出版 pp. 112-120.

文部科学省 (2008). 新学習指導要領 (平成 20 年 3 月告示 平成 23 年 4 月実施分)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/gai.htm

文部科学省 (2010). 「日本人の海外留学者数」について (平成 22 年 12 月 22 日発表)

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/12/1300642.htm

平成22年度(2010年度)1・2学期外国語活動アンケートの集計結果

Q1) 1・2学期の授業時数について(括弧内には、そのうちのALT補助時数を)

	6年		5年		4年		3年		2年		1年	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
箕面	7(n)	15(n)	9(n)	11(n)								
止々呂美	11(n)	15(n)	11(n)	15(n)	6(n)	8(n)	5(n)	8(n)	6(n)	8(n)	5(n)	8(n)
萱野	10(n)	13(12)	10(n)	14(n)								
北	8(n)	9(n)	8(n)	9(n)								
南	10(n)	11(n)	10(n)	11(n)	5(n)	4(n)	5(n)	4(n)				
西	9(n)	8(n)	10(n)	10(n)								
東	11(n)	13(n)	11(n)	13(n)	1(n)	2(n)	1(n)	2(n)				
西南	9(n)	10(n)	8(n)	10(n)	2(n)	2(n)	2(n)	2(n)	1(n)	1(n)	1(n)	1(n)
萱野東	10(7)	11(8)	11(7)	10(8)			2(n)	2(n)				
豊川北	11(n)	13(n)	10(n)	14(n)		2(0)		2(0)	1(0)		1(0)	1(0)
中	9(n)	7(n)	9(n)	9(n)								
豊川南	7(n)	8(n)	7(n)	7(n)	1(n)	2(n)	1(n)	2(n)				
萱野北	10(n)	10(n)	10(n)	10(n)	2(n)	2(n)	2(n)	2(n)				

Q2) 5・6年の1・2学期の授業案の作成について

	授業案の作成者と作成方法	工夫したこと、助かったこと、困ったこと等
箕面	(5・6年とも)ALTが中心となり学年教諭と協議の上作成。	ALTが主導となったことで、英語授業の組み立てに不慣れな教員も、英語活動の授業案の作成や授業準備に容易に当たることができた。
止々呂美	(5・6年とも)担任とALT	毎日顔を合わせることができるので、打ち合わせたスムーズにできたこと。
萱野	(5年)毎週ALTと担任で相談して決定。	基本は英語ノートに準じているが、必要に応じて具体物を使用した。電子黒板は、フル活用だった。
	(6年)HLTとALTで相談して授業案を作成。	教材の準備をALTが手伝ってくれた。
北	(5・6年とも)担任とALTが相談しながら。	ALTが、これまでの経験(授業実践)を生かしてアドバイスをしてくれたり、それをもとに子どもたちの実態に合わせて内容を考案し

		たりした。
南	(5年) 担任と ALT とで打ち合わせを行い実施した。	電子黒板と英語ノートの活用が上手くいって、分かりやすい授業構成ができた。打ち合わせの時間確保に苦労した。
	(6年) 学級の実状に合わせて、ゲームや課題を決めていった。	ALT が日本語が分かるので、助かりました。
西	(5年) 担任4名のうち1～2名と ALT が相談しながら作成。	作成に当たり、ALT からいろいろ提案があり助かった。担任と ALT がモデルを示すことができ、子どもにとって分かりやすかったようだ。聞くだけでなく、何度も発音させるようにしたことで、子どもの意欲につながった。
	(6年) 担任5人のうち2名以上で ALT と事前に授業案を考え、役割分担など作成。	“静と動”の学習を一時間内に組むように工夫した。
東	(5・6年とも) 学年の英語担当と ALT で話し合いをしながら作成した。	(5年) 授業の展開が一貫していたこと。学年が変わっても、児童がスムーズに英語に取り組めた。
		(6年) ALT が日本語を上手に話せるのが助かった。授業案作成の時も、スムーズにいった。
西南	(5年) 英語ノートの授業案から ALT と学年全員が次回の授業の内容と方法を話し合っ作成した。	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文や単語を積み上げて、毎回復習して次の会話に進むようにした。 ・できるだけ教書も英語を使う。 ・教材準備の宿題を出し、それを確認することですぐ授業に入ることができた。
	(6年) ALT と学年担任	<p><助かったこと>ゲームなど持っている物が豊富なので、授業が組める。</p> <p><困ったこと>ALT がいないと、内容・発音ともに困る。</p>
萱野東	(5年) ・ALT と相談して作成 ・昨年の指導案を参考に作成	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ子どもが楽しめるアクティビティ ・ALT をお願いする割合が多かった。 ・ALT が日本語が話せる方だったので、コミュニケーションが取りやすかった。
	(6年) 英語ノートを中心に、昨年度の指導案を参考に作成した。ALT と担任で相談した。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を多く取り入れ、コミュニケーションができる内容ができた。 ・ALT が提案してくれるアクティビティが良かった。
豊川	(5・6年とも) 担任と ALT で毎	打ち合わせの時間を持つことが難しかった。

北	週、次回の指導案を作成している。	子どもの様子を話し合い、次の授業の内容・進む速さを考えた。
中	(5年) ・5年学級担任3人で作成 ・作成にあたっては、事前にALTと担任で次時の授業の打ち合わせをした。	・打ち合わせの時間が、なかなか取りにくい。(放課後の会議、休み時間のトラブルの解決など) ・打ち合わせ時では、ALTの先生が日本語を話してくださるので助かった。
	(6年) ・6年担任とALTで打ち合わせをして、次時の授業案の作成をした。	・打ち合わせの時は、ALTの先生が日本語を話してくださるので助かった。
豊川南	(5年) ALTと学年の英語担当の話し合い	(工夫) モニターを使いながら、発音や歌などを練習。 (助かったこと) ALTがいろいろと案を出してくれた。
	(6年) ALTと学級担任の話し合い	(工夫) 積極的な視聴覚教材の導入。 (困ったこと) 具体的な活動が示されている指導案がほしい。(英語ノートでは、一時間の時数では足りない)
萱野北	(5・6年とも) ALTが基本案を作成。その後、学級担任と協議して決定した。	ALTは一尾の放課後に、次週の授業について協議した。時間の確保に努めた。

Q3) ALTと教職員のコミュニケーションについて

	状況	工夫したこと、有効だったこと
箕面	授業の準備等、必要事項に関するコミュニケーションは、充分取れていた。	ALT 来校日に定期的に打ち合わせを実施することで、計画的に授業を進めることができた。
止々呂美	非常に良くできている。	お互いに連絡を取り合っている。
萱野	・毎週打ち合わせを行っている。 ・次週の打ち合わせを大まかに行き、授業当日の朝もう一度確認をしている。	・6年は教科担任制を行っているので、授業が終わる毎に変更などの打ち合わせができたこと。 ・子どもと一緒に給食を食べてくれるのが嬉しい。
北	良好	ALTが日本語も上手なので、気軽に会話ができる。
南	金曜日に来られるので、簡単な	打ち合わせの隙間をぬって雑談をしたのが

	挨拶や雑談をしたが、できない時もあった。	良かった。必ず挨拶や簡単なコミュニケーションを取るようにした。
西	よくとれていると思う。日本語が堪能なので打ち合わせもし易く、写真などの資料提示もあり助かった。	5年：二学期以降、子どもに発音させる機会を多く設けたことにより、聞くことが多かった活動に広がりができ、意欲的に活動するようになった。 6年：ALTは電子黒板を使う授業を提案し、担任は「動きや個々の子どもの活動を増やしたい」と視点が異なることをうまく出し合えたので、特に後期は授業の中に子どものいろいろな活動を取り入れることができた。
東	放課後に、5・6年の英語担当者がALTと次週の打ち合わせを行っている。	準備物がスムーズに用意できる。
西南	・良好である。 ・毎時の打ち合わせを毎回している。	<工夫>30分休憩に指導案計画会をして、展開をプリントにした。 <有効>授業がスムーズに進む。英語ルームがあるのが、助かる。
萱野東	始めは電話やファックスを使って打ち合わせをしていたが、二学期後半は当日朝に打ち合わせをしていた。	日本語が十分に話せるALTであったので、助かった。
豊川北	英語と日本語を交えて話している。ALTが日本語をよく理解しているので、子どもの様子についても、よく話し合えた。	英語ノート、指導資料を見ながら話したこと。日本語と英語の両方で書かれているので。
中	日本語で会話できるので、ありがたいです。	
豊川南	ALTと学級担任との関係は良好。	毎週のALTとの打ち合わせでは自由な意見交換ができ、有効であった。
萱野北	ALTが日本語堪能で、とても良好だった。	授業内容以外のことについても、コミュニケーションに努めた。

Q4) 5・6年の外国語活動の評価について

①クラス担任による「個々の児童の授業での到達度」の把握について

箕面	担任による授業中の観察・提出物の内容点検による。
此々呂美	アンケート実施
萱野	・学期に1度または2度程振り返りシートを書かせている。

	・特に評価カードは作成していないけれど、学期末の総合学習の振り返りの中で項目を作っている。
北	活動の時間を多く取り、個人の発表の場も作っている。その時の意欲や積極性などを見ている。
南	子どもたちの挙手の度合い、発声をしているか、大きな声を出せているか。そして、ゲームに参加している時の態度や表情を観察して評価している。シートを使い、アンケート等も行う予定である。
西	5年：授業後に感想カードに記入。 6年：授業案にそって学年で振り返りシートを毎時間作成し、授業後に記入。
東	振り返りカードの内容で評価している。本時の課題に沿った振り返りが書かれているかどうか。
西南	授業に参加している状況観察（HRTが見て把握）
萱野 東	特になし
豊川 北	小学生の外国語活動に到達度が必要なのでしょうか。楽しんでいる様子は分かりますが、授業内で、それ以上の把握は難しいです。
中	授業時の観察・感想を聞く、など。外国語活動は、アクティビティも多く、指導をしながら観察により個々の児童の到達度を測るのは、大変難しい。振り返りシートはマンネリ化に成りかねないので実施を避けています。
豊川 南	振り返りシートのような手だては、特になし。
萱野 北	授業で使用したワークシートの点検。

②通知票への記載について

	形 式	観 点
箕面	各観点のうち、顕著なものに○印。	<ul style="list-style-type: none"> ・言語や文化について、体験的に理解を深める。 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 ・英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。
止々呂美	文章表記。	※同封印刷物参照※
萱野	総合学習の所見の中に外国語活動について文章表記している。	<p>特に活動の中で目立ったところなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に積極的に参加している。 ・表現しようとしている。 ・コミュニケーションをとろうとしている。
北	選択式	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親し

		<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 ・楽しく活動に取り組む。
南	文章表記	
西	最も顕著なところを表記する。	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに関すること。 ・ゲームやワークなど活動への態度。 ・異文化を知り、親しむこと。
東	観点に沿って、とりわけ努力したものに○をつけて評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・英語に積極的に参加する。 ・聞く・話す（インタビュー・発表） ・外国文化に親しむ (授業で取り上げた内容に沿って、振り返りが書いているか。外国のことについて触れているか)
西南	3項目観点別(2011年度予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・言語や文化について体験的に理解を深めようとしている。 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しもうとしている。
萱野東	総合の中に1つ。 「英語活動を通じて、外国語に親しもうとする」	
豊川北	観点別 ・特に顕著なものに○印	<ul style="list-style-type: none"> ・英語に興味を持ち、英語を聞いたり話す活動に積極的に取り組む。 ・日本と外国の両方の言語・文化について知り、理解しようとする。 ・相手の話を理解しようとしたり、自分の考えを相手に伝えるように話そうとする。
中	記述	3観点で、良くできたと思われるものを記入。
豊川南	観点別 ・特に顕著なものに○印	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や文化について体験的に理解を深めようとする。 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しもうとする。
萱野	3つの観点につき各々「よくで	※あゆみ参照※

北	きた・できた・がんばろう」の 3段階で評価した。	
---	-----------------------------	--

③その他、困っていることはありますか？

箕面	特記事項なし
止々呂美	特になし
萱野	・今後の評価の仕方 ・来年度からの授業（担任が主で行うこと）や評価等について、どのようにしていけばよいか等疑問な点がある。
北	児童の個々のレベルの差が大きく、授業を作る上で悩む。
南	ALTの方がとても熱心だし、的確に指導して下さったことに助けられました。担任がまごついている時も我慢して下さいました。来年も、同じALTの方が来て下さったらと思っています。
西	担任主導ということは理解していますが、ALTに頼ってしまうところがある。
東	教師の主観による評価になっているのではないかという不安もある。
西南	授業をしながら、評価するのは難しい。
萱野 東	
豊川 北	・来年度より通知票の評価方法が記述になること。 ・英語をいやがる子どもが出始めたこと。 ・外国語活動はたのしいものであるべきではないでしょうか。
中	
豊川 南	・来年以降、ALTの関わる時間が減ることが予想され、それに伴う授業実践のネタや指導書がほしい。 ・電子黒板を5・6年の各クラスに設置してほしい。 ・授業での担任の取組方がバラバラ（意識の差）。 ・電子黒板以外の教材（カードなど）がほしい。
萱野北	

Q5) 今後希望される研修内容等

箕面	授業方法や内容についての、より実践的な研修
止々呂美	指導方法の具体的提示や研究授業の実施を今後も続けてほしいです。よろしくをお願いします。
萱野	・ティームティーチングについて ・アクティビティのアイデア（ゲーム、練習等）
北	
南	英語ノートの指導資料のCDを聞くことが出来たらと思います。
西	

東	
西南	英語専科がほしい。
萱野東	アクティビティの紹介・研修など
豊川北	楽しい外国語活動の具体的な方法。
中	
豊川南	
萱野北	